

第7祖
法然聖人の教え②



法然聖人像（隆信御影）
[鎌倉時代，京都・知恩院]

還来生死輪転家
決以疑情為所止
速入寂靜無為樂
必以信心為能入

令和6年4月14日(日)
第40回 信行寺仏教講座

法然（源空）聖人の章

- ① 選択本願による悪人の救い
- ② 信と疑との分岐

「選択」とは・・・

→ 阿弥陀仏による
選捨・選取の義

「往生の因」という点において・・・

選捨・・・ 念仏以外の種々の行

選取・・・ 称名念仏

なぜ称名念仏が選り取られたのか？

称名念仏は勝易の二徳を具える！

勝徳 ... 阿弥陀仏の修行の勝れた功德
が込められている

易徳 ... 口に称えることは容易である



勝れた功德が込められた行でありながら、
いつでも・どこでも・どんな時でも、簡単
に修することができる。

②信と疑との分岐

迷いの世界に輪廻し続けるのは、本願を疑いはからうからである。

114 決以疑情為所止

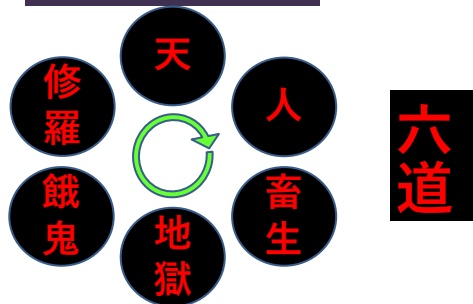
本願を疑う心

・家：世界。ここでは迷いの世界の意。

・生死輪転：生まれ変わり死に変わり(輪廻)して、転々とする事。

113 還来生死輪轉家

仏教の世界観



本願を疑う心によって、いつまでも迷いの世界に止まる。

速やかにさとりの世界に入るには、ただ本願を信じるより他はない。

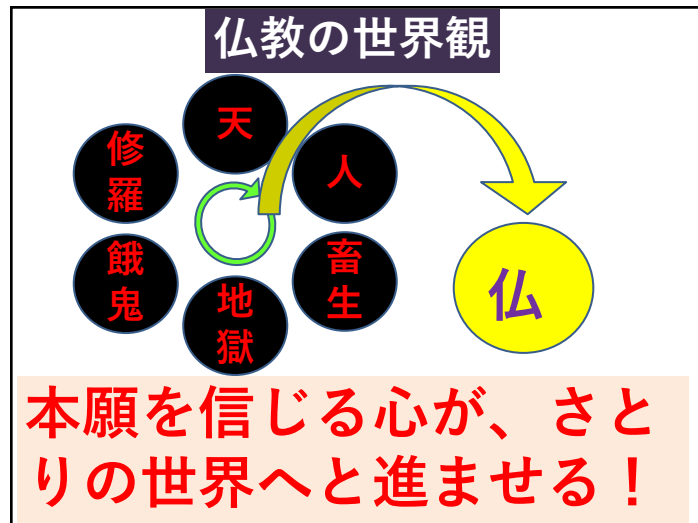
116 必以信心為能入

本願を信じる心

・楽：みやこ。洛陽の「洛」と発音が同じことから当てた字とされる。

・寂静無為：涅槃、さとり。

115 速入寂静無為楽



信疑決判

『選択集』には、私たちが迷いの世界を輪廻するのは阿弥陀仏の本願を疑うからであり、浄土に往生して仏となるにはただ本願を信じることによると示される。すなわち、**迷いとさとの差は本願を信じるか疑うかにかかっている**と法然聖人は判定したのである。これを「信疑決判」という。したがって法然聖人は、ただ専修念仏をするのではなく、**本願を信じて専修念仏を行う**ことを勧めていた。

⇒ 善悪対から信疑対の仏教への転換

すべての仏に共通する教え

七仏通誡の偈

諸悪莫作 众善奉行 自净其意 是诸佛教

諸の悪は作すこと莫れ。衆の善はつつしんで行い、自らその意を淨くする。これ諸仏の教えなり。

- ### 十悪
- ① 殺生 (生き物を殺す)
 - ② 偷盗 (ぬすみ)
 - ③ 邪淫 (邪な性の交わり)
 - ④ 妄語 (うそいつわり)
 - ⑤ 両舌 (二枚舌)
 - ⑥ 悪口 (罵りの言葉)
 - ⑦ 綺語 (飾った言葉)
 - ⑧ 貪欲 (むさぼり)
 - ⑨ 瞋恚 (いかり)
 - ⑩ 愚痴 (おろかさ)

七仏通誠の偈

はいあくしゅぜん
廃悪修善

悪をやめて善をなす

仏教の最も基本的な教え

仏陀 最高の善人

近い 善人 救われやすい

遠い 悪人 救われにくい

法然聖人『選択集』

称名を行えば、かならず浄土に往生することができる。なぜならば、それは阿弥陀仏の本願に従っているからである。

(称名必得生、依仏本願故)

法然聖人の教えの特異性

法然聖人は『選択集』で、「南無阿弥陀仏」と称える称名念仏こそが、阿弥陀仏が衆生の往生のために選ばれた行であり、**本願を信じて、念仏することによって**平等に救われていく専修念仏の思想を明確に打ち出した。

この思想は、善人が悪人か、裕福か貧乏か、持戒か破戒か、それらの要因が往生を一切左右しないというものであった。

愚か者が愚か者のままで生死をはなれる道、それは前代未聞の仏法であり、法然聖人の専修念仏の教えは、まさに仏教という概念そのものをくつがえすものであったといえる。

法然聖人の教えのポイント

- ☆ 阿弥陀仏が、あらゆるものを救うために念仏以外の諸行を選び捨て、勝易二徳を具えた称名念仏を選び取られて本願に誓われたことを明らかにし、この世に広められた。
- ☆ 迷いの世界に輪廻し続けるのは本願を疑う自力のはからいが原因であり、速やかにさとりの世界に入るには本願を信じる他にはないことを明かされた。

善導・源信すすむとも

本師源空ひろめずは

片州濁世のともがらは

いかでか真宗をさとらまし

〔高僧和讃〕「源空讃」(『註釈版』五九六頁)

善導大師や源信和尚が勧められ
ても、源空聖人が説きひろめて
くださらなかったなら、インド
から遠く離れた日本で、さまざま
まな濁りに満ちた世に生きるも
のたちは、どうして真実の教え
を知ることができたであろう。

『歎異抄』第1条

阿弥陀仏の誓願の不可思議なはたらきにお救いいただいて、必ず浄土に往生するのであると信じて、念仏を称えようという思いがおこるとき、ただちに阿弥陀仏は、その光明の中に摂め取って決して捨てないという利益をお与えくださるのです。

涅槃の真因は、ただ
信心をもってす。

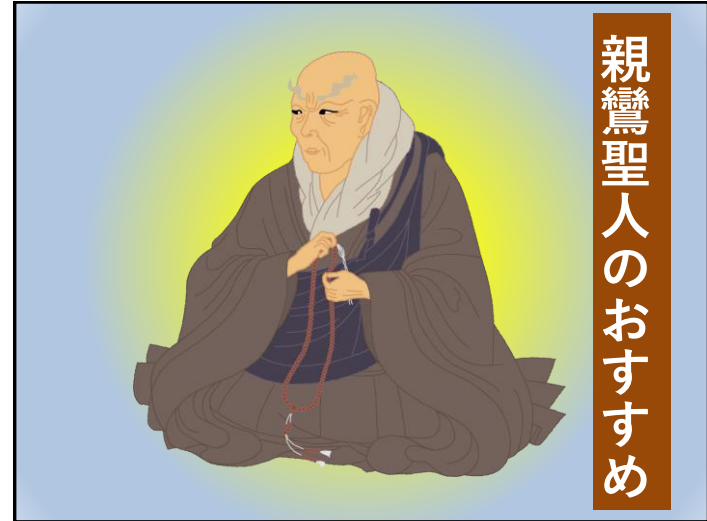
(『教行信証』信巻)



親鸞聖人『末灯鈔』

信の一念・行の一念ふたつなれども、信をはなれたる行もなし、行の一念をはなれたる信の一念もなし。

⇒ 信行不離



浄土の教え（『大経』の阿弥陀仏の本願）を広めてくださった祖師方は、

・宗師：曇鸞大師・道綽禪師・善導大師・源信和尚・源空聖人を指す。

・大士：菩薩のこと。龍樹菩薩・天親菩薩を指す。

117 弘経大士宗師等

数限りない五濁の世の衆生をみなお導きになる。

・拯濟：「拯」・「濟」ともに救うの意。たすけ救うこと。

118 拯濟無辺極濁悪

出家のものも在家のものも、今の世の人々はみなともに、ただこの高僧方の教えを仰いで信じるがよい。

120 唯可信斯高僧説

・道俗時衆…
道 || 出家者、俗 || 在家信者
時衆 || その時代の人々

119 道俗時衆共同心

結びのポイント

- ☆七高僧は、様々な表現で阿弥陀仏の本願を明らかにし、我々に示してくさっている。
- ☆親鸞聖人は、七高僧がお示し下さった本願念仏の教えをただ仰いで信じるがよいと勧められている。
- ☆阿弥陀仏の本願は、全ての衆生のためとあるが、特にこの「私」のためにたてられたことを明らかにされている。